

教育

「キレる」子に学校

無関心な親にも困惑 非行拡大招く 警察通報遅れ



生徒の暴力への対応を模索する広島市内の中学校

「理由が曖昧な暴力もみられ、イヤミしていたと話し合った。廊下に出た後、前よりして授業を妨害する行為。別の中学校で1月、したという。校長は「じていいこと、廊下に机を置いて交代で見た男子のそばを通りかかれない。我慢をする力が欠けていない」と指摘する。別の中学校でも1月に教

論への暴力事件が起きた。ホームルーム中に立ち歩いてきた生徒の前に教諭が立ちはだかると、顔を拳で殴られたという。学校側は生徒だけでなく、保護者の対応にも頭を抱える。教諭が殴られた中学校では、生徒が問題行動を起こすたび、保護者に連絡するが、校長は「学校生活に無関心で、生徒の体と少し触れただけで結ばれることに不快感を示す保護者さえいる。親の協力がなければ教諭の指導にも限界がある」とぼす。

一方、県警少年対策課の原田義士次席は、学校の対応は後手に回っている。学校側から被害届があつたケースで校内の記録を調べると、対象の生徒が過去にも暴力を繰り返しているケースが目につくという。福山市内の中学校では、非常警報装置を何度も壊す生徒と学校側とのいたちこつもあった。

原田次席は「度がすぎると事案に対しては、毅然とした対応が必要だ。学校現場の問題として済ませないでほしい」と迅速な相談や連絡を求める。

呉市や三次市の中学校8校で巡回指導している警察官OBのスクールサポーター石井誠治(62)は「学校生活に無関心で、生徒の体と少し触れただけで結ばれることに不快感を示す保護者さえいる。親の協力がなければ教諭の指導にも限界がある」とぼす。

他県の学生と平和学 平和記念公園や似島訪問



広島市立大

広島市立大(安佐南区)の平和活動サークル(S2)が、他県の大学生を募って広島市を歩き、平和について学ぶツアーを開いた。3月5日はマンパ13人が鹿児島大3年里真美さん(20)を案内し、平和記念公園や似島を訪ねた。中区の原爆資料館では、被爆者の体験談を聞き、平

た。学生たちは事前に学習し、被爆の惨状や慰霊碑の由来を説明しては。里さんは「広島は、同年代の学生と一緒に平和への考えを深めていきたい」と話した。

同団体は昨年、広島平和文化センターのアドバイザーの理事長の講演に感銘を受けた学生有志が設立。平和市長会議への加盟呼び掛けや非政府組織(NGO)への協力をしている。

代表の3年藤波紗耶さん(20)は「何が恐ろしく、いけないのかを知らなければ繰り返されぬ。地道に平和を考え、活動したい」と話していた。(3年校業早紀)

私の師

「田舎の娯楽」。かつてはそうみられていた神楽が、広島県を代表する民俗芸能として人気を集めている。その背景には「温故知新」の精神があつたからと、と確信している。私は面師の菅沢良典さん(65)に北広島町有田と出会い、それを教わつた。

神楽演出家 石井 誠治さん



いしい・せいじ 1949年、広島県北広島町生まれ。壬生小、千代田中、千代田高、広島経済大卒。71年に旧千代田町職員となり、主に町教委に勤務。広島修道大非常勤講師も務めた。町を退職後、91年に北広島町で企画会社「ゼロワン」を設立した。NPO法人広島神楽芸術研究所(北広島町)の理事を務め、2006年からは広島・島根両県の神楽団の交流や文化発信を目的とした定期公演「月一の舞」を演出する。北広島町在住。62歳。

「温故知新」の精神説く

1980年代、旧千代田町(北広島町)職員として社会教育を担当し、地域に息づく神楽の産業化を模索していった。目標は「温故知新」の精神があつたからと、と確信している。私は面師の菅沢良典さん(65)に北広島町有田と出会い、それを教わつた。

そのころ、菅沢さんと知り合った。島根県旭町(現浜田市)に住む30歳手前の若者だった。神楽への真摯な姿勢、そ

「ク」した演目「板蓋宮」の発表に力を尽くした。92年だった。当時、神楽界がターナーに引き継がれ、地元の中川戸神楽団の一員になつて、天化の改新をリメ

「彼ならやつてく

「神楽を鑑賞するのにお金があるの。そのな時代だ。中川戸神楽団は、板蓋宮を引っ掛けて広島市内での公演に打って出た。

今思えば、広島公演は神楽を次のステージへ引き上げるための第一歩だ。た。また始めは満員御礼、拍手喝采。神楽人気の火付け役となった。

「伝統は受け継いでいくだけでいい。新しい風を吹き込んでこそ、真の伝統になる」。彼が常々、口にしてきた言葉だ。

リメークとは演目の作り直しを追求し、再確認する作業でもある。団員は演目の背景にあるものを理解し舞わないと結局、深い若に仕上げることができない。それを実践する姿を間近で見、学んだ。

以来、私は温故知新を念頭に、神楽の「創造的伝承」を唱えている。それは舞台芸術としての価値を高めること。中山間地域では過疎高齢化が進み、後継者不足は深刻だ。神楽に魅力がなければ担い手となる若者は食いつかない。そこで伝統を

わってしまつた。広島県主催の「ひろしま夏の芸術祭」で2009年度は広島交響楽団との共演で「八岐大蛇」と、10年度は平清盛の生涯を描いた創作神楽「厳島」を演出した。

団員とぶつかり合いながら歴史を丁寧にひもとき、面や衣装、小道具の作り手とも協議を重ねて完成させた。菅沢さんは同士として一緒に取り組んできた。創造的伝承の集大成と思つている。

7月に広島市中区である「神楽スペシャル」伝説の地を訪ねて。の総合演出も担当。演目にゆかりのある地の歴史などを紹介しながら見せようとした。これからは神楽の興行を広く広げたい。(聞き手は胡子洋)

中国新聞 ちゅー

プログ いい夢みたな〜とバクさん。「そうだ、プログに書いてみよう... しまった、食べちゃった!」

田中食品プレゼンツ カーブキャラ弁コンテスト

ジョーズにできたわ、コイ弁当。写真撮って投稿して、早く食べちゃお!

木下大サーカス 舞台裏日記

練習の合間に携帯電話で日記を投稿。人気者は忙しいゾ!

中国新聞